

- 樹園地全体で機械作業のしやすい省力樹形（高密植栽培）を導入することで、自動操舵トラクタによる防除、株間の除草、摘花等の機械作業を実施。
- 単収の向上と機械化による効率化により、単収当たりの労働投入量が減少し、労働生産性が向上。

経営上の課題

- ・従来の丸葉台栽培や矮化栽培では園地設計上、樹形管理や摘花・摘果など機械化が難しい作業が多く、高齢化や担い手不足と相まって生産量の維持が難しくなりつつある。

スマート農業技術の活用しやすい園地設計と高密植栽培の樹形を導入し、収益性を確保しつつ、大規模かつ省力的な栽培管理体制を構築する必要。

申請者：
トレイリックス
TRAILIX株式会社（北海道共和町）

対象品目：
りんご

スマート農業技術：
自動操舵トラクタ（直進アシスト）

新たな生産方式：
省力樹形（高密植栽培）の導入

活用予定の支援措置：
補助事業の優遇措置

計画の概要

スマート農業技術

自動操舵トラクタ



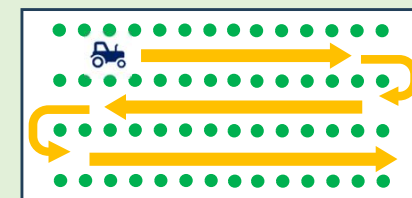
自動操舵トラクタによる防除、株間の除草、摘花作業等の機械化

新たな生産方式

省力樹形の導入（高密植栽培）



小型の株を直線的に配置し機械作業が容易



樹園地全体で自動操舵トラクタの走行路を確保

樹園地全体で、機械作業のしやすい高密植栽培を導入することで、労働投入量が減少し、収益性が向上

スマート農業技術を活用し大規模・省力的な栽培管理体制を構築